

C-10 はきものの衛生—足型からみた靴の影響について—
和洋女大文家政 ○田口秀子 川村一男

身体の全体重を支えて、身体の平衡を保つには、はきよく、歩きよい靴が望まれる。

靴によって足部趾先に変型をきたす例の多いことが考えられるので、靴の使用経験年と足型の変化から、この影響を追究した。

足型の採取は、Monkemoller と Kaplan の方法を用い、幼稚園児・小学生・~~中学生~~・成人それぞれ水男女各年令層 360 名の足型をとり、足長・足幅・及び拇趾角の測定を行った。

その結果、次のような成績を得た。

1. 靴のサイズは身長と正比例する。
2. 足長と靴のサイズとのゆとり量は、成人男子 > 成人女子 > 小学生男子 > 小学生女子 > 幼稚園男児 > 幼稚園女児の順に少くなり、靴のサイズの小さい年令ほど、ゆとり量も少い。
3. 足長の大きい人は、足中も大きい。
4. 拇趾角の変化は、幼稚園男女児及び小学生男子に少く、成人女子にその変化が多く見られ、足型から見て靴による影響がありわれたものと考えられる。
5. 足中の大きさと、拇趾角の変化との関係は認められない。
6. 足型の男女差については、幼稚園児にはその差がみられず、才二次性徴の出現する時期に、その差が出現する。
7. 幼稚園児の足型では、男女共に扁平型が多く、100 例中 30% にその傾向が見られた。この傾向は、加齢と共に減少するが、小学生・成人とも男子に扁平型の出現率が高い。